

序

レジデントノートの主な読者である研修医あるいは若手医師の方々は、医学部2～3年生の時期に薬物作用機序を中心とした薬理学を学ばれたことと思います。一方、高学年の臨床実習では疾患・臓器単位で患者さんを捉えることが多く、ヒト・患者に対する“くすり”の使い方を横断的にとらえる機会は限られていたと思います。いざ卒業して診療現場に出ると処方、注射薬指示、あるいは自ら薬剤投与を行うという状況になり、医学生時代の基礎科目としての薬理学と現場での実践的な薬物療法との間のギャップを意識されたのではないのでしょうか。そのような状況において、実践的な薬理学・薬物治療学の交通整理を行うことが診療スキル自体のブラッシュアップにつながるものと考へ本増刊を企画いたしました。

本書は医師のみならず、多くの医療プロフェッショナルの方々にもお役に立てる内容だと思います。特に、薬剤に関するエキスパートである薬剤師の方々は、これまでは調剤業務や医薬品管理など対物業務が主体であったと思いますが、最近では病棟・外来支援業務などが加わったことで対人業務の増加、また医師・看護師など多職種とのチーム医療への積極的参画が求められ、“くすり”側から各診療分野を俯瞰的に見る必要性が増しているかと思いますが、本書はそのようなニーズにも応えられるものとなっています。

具体的な構成としては、実践的な基礎知識の再整理を企図し、医薬品の開発、ADME・薬物動態、special population（小児、高齢者、妊産婦・授乳婦、腎臓など臓器障害を伴う患者）への薬物療法の要点、処方箋を作成するポイント・その処方箋に基づいて薬剤がいかに準備され現場あるいは患者さんの手元に届くか、薬物相互作用、TDMなど“くすり”にかかわる必携知識を前半に配置し、後半の各臨床領域の要点・トピックスと併せて“くすり”にかかわる全体像を把握できるよう、各エキスパートの先生方にご執筆いただきました。

本書が明日からの診療の一助となり、“くすり”をさらに活かすことにつながれば幸甚に存じます。

2023年10月

自治医科大学
臨床薬理学部門・薬剤部
循環器内科学部門
今井 靖